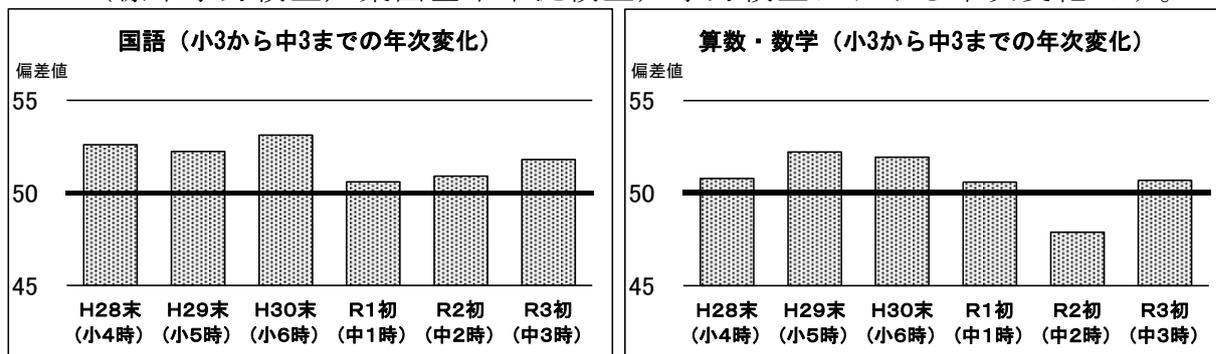


## V 田上っ子の「学力」と田上の授業評価

### 1 田上っ子の「学力」の評価

下グラフは、平成28年度末に小4だった2小学校集団の中3（田上中）までのNRT（標準学力検査／集団基準準拠検査）学力検査における年次変化です。



国語は、小3から中3まで全国平均以上であり、中1から中3まで数値が向上しています。算数・数学は、全国平均を中2で下回りましたが、その他は全国平均以上です。

多くの学校では、小学校から中3まで学年が進むにつれて数値が下がっていく傾向が見られます。田上町では、そういった傾向を感じません。このことから、田上町の小中学校では、全国平均を上回る学力が定着していると評価できます。

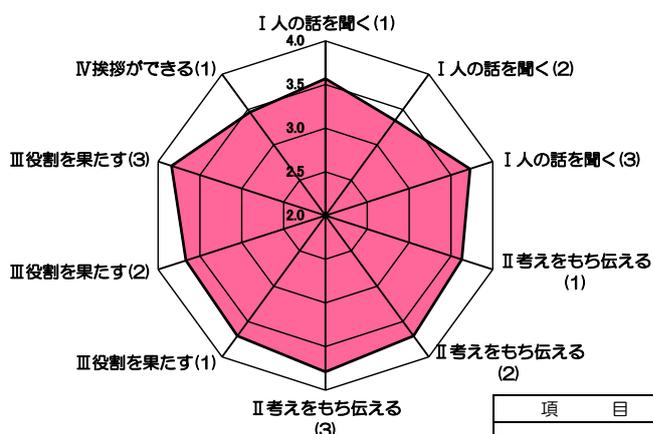
### 2 児童生徒と教師の授業評価

毎年度末に、幼稚園教諭、全児童生徒並びに全教諭を対象にして「授業評価」アンケートを実施し、児童生徒と教師の自己評価の差異から当該年度の指導を見直すとともに次年度の授業につながる改善を見出すことに努めてきました。

幼稚園教諭は「4つの行動」を10観点で、小中学校教諭は「学習集団づくり」「授業の目標設定」「教材・教具」「発問・指示」「板書」「活動の場」「つなぐ時間」を10観点で自己評価しています。

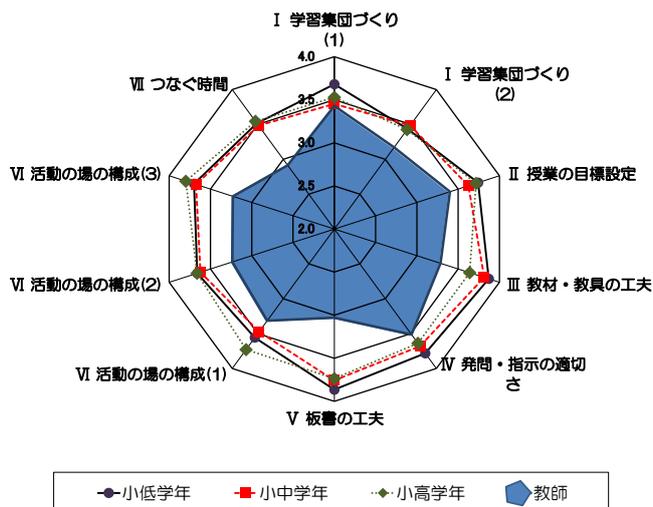
以下は、令和3年度の評価結果です。

#### 幼稚園教諭の評価



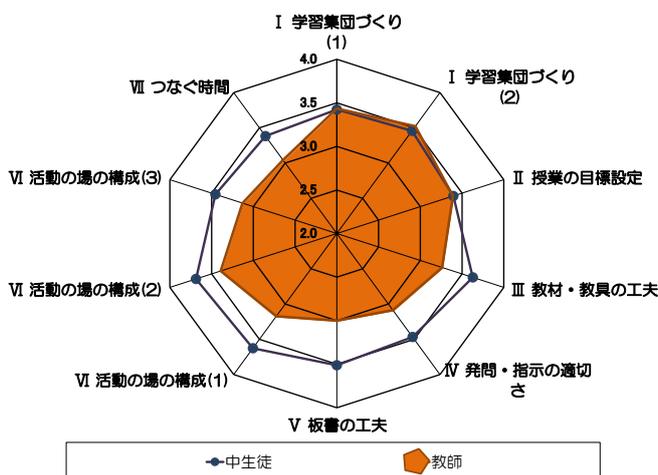
項目	幼稚園教師アンケート
I 人の話を聞く	(1) 話を聞く姿勢をつくってから話した。
	(2) 小さな声でゆっくり話した。
	(3) 簡潔に話した。
II 考えをもち伝える	(1) みんなの前で話す機会を増やした。
	(2) 思いを丁寧に受け止め、話したいという意欲を高めた。
	(3) うまく伝えられない時は言葉を補って表現の仕方を教えた。
III 役割を果たす	(1) 身の回りの片付けについて、時々言葉をかけ、確認させた。
	(2) 生活の仕方を教え、できることは自分でさせた。
	(3) 手伝おうとする姿を認め、自信や意欲につなげた。
IV 挨拶ができる	「あいさつ」が飛び交う雰囲気大切に指導にあたった。

### 小学校教諭と児童の評価



項目	児童アンケート
I 学習集団づくり	(1) 安心して発表、しっかり発表を聞く。 (2) 「学習のきまり」を守る。
II 授業の目標設定	何を学習するかわかる。
III 教材・教具の工夫	教材でわかりやすく工夫する。
IV 発問・指示の適切さ	わかりやすく質問する。
V 板書の工夫	わかりやすく板書する。
VI 活動の場の構成	(1) じっくり考える時間がある。 (2) 困った時に教えたり励ましたりする。 (3) 話し合いの時間がある。
VII つなぐ時間	自分で家庭学習の計画を立てる。

### 中学校教諭と生徒の評価



項目	生徒アンケート
I 学習集団づくり	(1) 安心して発表、しっかり聞いて認める。 (2) 「学習のきまり」を守る。
II 授業の目標設定	授業のねらいがわかりやすい。
III 教材・教具の工夫	教科書以外に資料等を使った授業。
IV 発問・指示の適切さ	わかりやすく質問する。
V 板書の工夫	わかりやすい板書の内容。
VI 活動の場の構成	(1) 自分で考える時間がある。 (2) 友達と意見交換できる時間がある。 (3) 先生のアドバイスがある。
VII つなぐ時間	自分で家庭学習の計画を立てる。

### 幼稚園の評価から

幼稚園教諭は、園児の身の回りの片付け、自分でできることは自分でする、友達を助ける等の「役割を果たす」ことを高く評価しています。人の話を聞いてきちんと理解しようとする園児を育むために、話を聞く体制づくりや小さな声でゆっくり話すことに努めています。友達や先生等とすすんで挨拶できるようにすることを課題としている教師が多いようです。

### 小学校の評価から

教師も児童も、「安心して学べる、学び合える集団づくり」「学びの目的が分かる授業づくり」「分かりやすい発問」の取組を互いに高く評価しており、児童は教師のそんな姿勢を肯定的に受け止めています。

「板書の工夫」「つなぐ時間」について、児童と教師の評価の差異が大きくなっています。教師の努力や工夫に対する児童の受け止めに具体的にして、改善点を明確にしていくことが大切です。

## 中学校の評価から

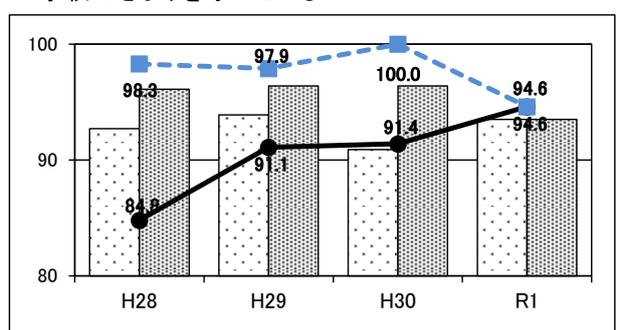
教師は、「安心感を伴う授業」「友達との意見交換」「授業のねらいが分かりやすい」等を大切に授業改善に努めています。生徒は、「授業で活用する資料」、「自分で考える時間の設定」、「友達との学び合い」を高く評価しています。そういった教師の努力と姿勢が、多くの生徒に受け入れられています。

教師と生徒の「つなぐ時間」への評価が低く、家庭学習を計画して取り組むことが十分でないと感じています。家庭学習の大切さを認識している表れです。

### 3 学校生活の評価

平成 28 年度から令和 3 年度までの全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査（R2 年度はコロナ感染で中止。年度や小中によって質問内容が異なります。）から、学校生活の様子を推察します。

学校のきまりを守っているか

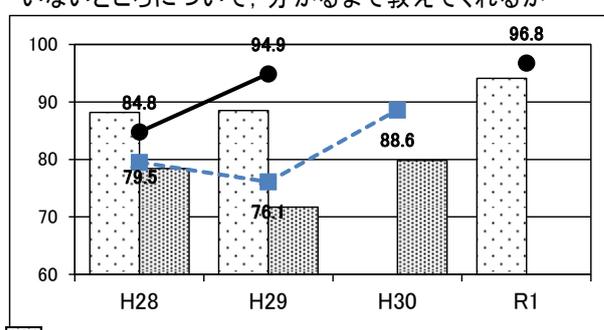


※R1年度の中学校質問紙に、該当設問なし。

● 田上町小6児童

■ 田上中3生徒

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれるか

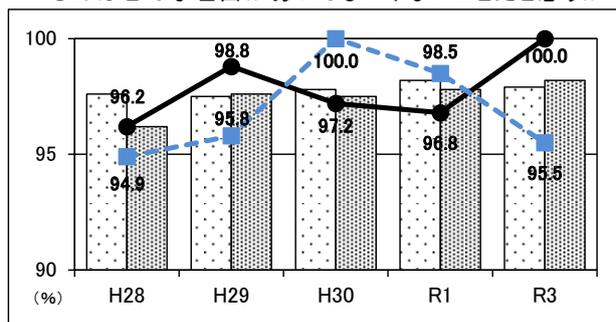


※H30年度の小学校質問紙に、該当設問なし

※R1年度の中学校質問紙に、該当設問なし

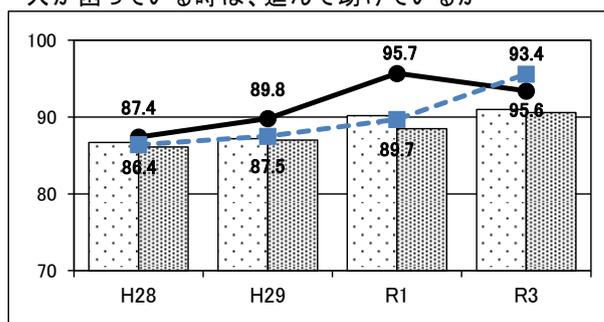
「学校のきまりを守っている」と、肯定的に回答する児童生徒の割合が高く、小中学校共に県平均を超えています。授業での教師の支援についても、小中学校共に、「先生は、分かるまで教えてくれる」と回答する割合が高くなっています。児童生徒が教師に向ける信頼の眼差しを感じることができます。

いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか



(%)

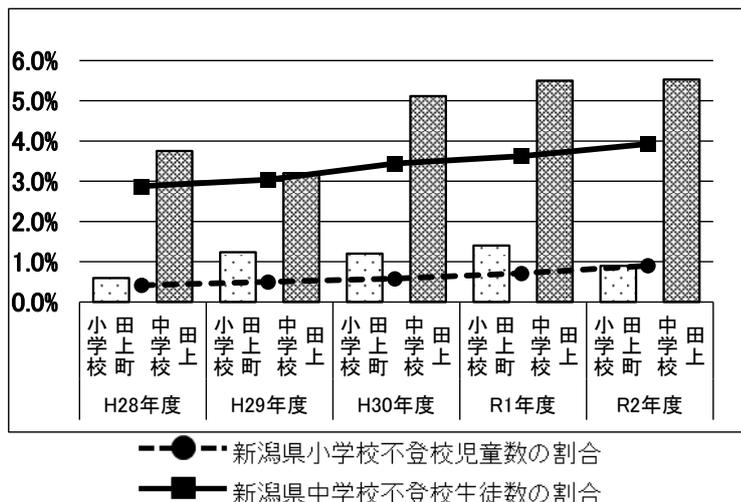
人が困っている時は、進んで助けているか



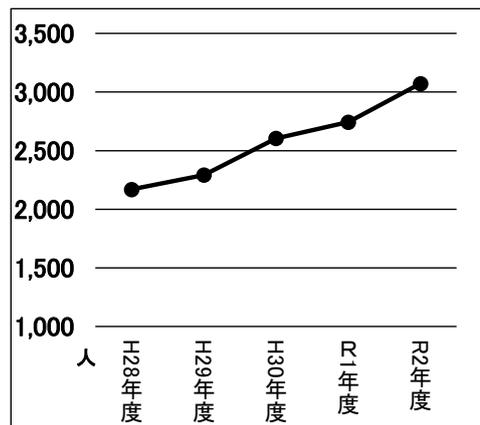
「いじめはどんな理由があってもいけないことである」と認識する中学生の割合が概ね高くなっています。小学生では、県平均を超える年度が多い状況です。平成 30 年 7 月に「田上町いじめ防止基本方針」を策定し、各校はこれに基づいて自校の取組をホームページに掲載しています。また、毎月、町教委へのいじめの状況報告を義務付けています。町内の小中学生が一堂に会して、自校の継続的な取組やいじめの実際を協議し合う「田上町いじめ見逃しゼロスクール」等の取組と相まって、各校のきめ細かないじめ点検の成果と受け止めています。

「困っている人を進んで助けている」と回答する割合が年々増加していることは特筆すべきことです。

新潟県内と田上町の不登校児童生徒数(割合)



新潟県内の不登校児童生徒数(総計)



田上町の不登校児童生徒数の割合は、小中学校ともに県平均より多い状況が続いています。大きな課題であると受け止めています。

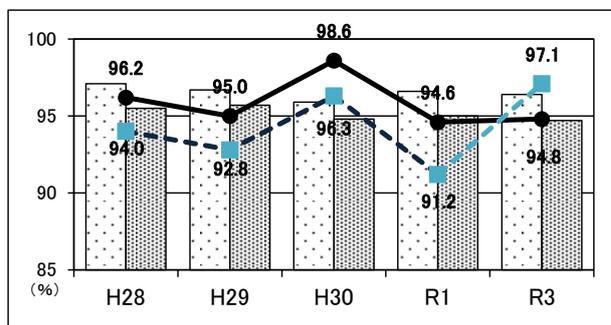
一人一人の不登校の状況が多様であり、児童生徒の適切な対応にあたることに困難な面がありますが、田上町では、次のことに取り組み、不登校児童生徒の指導にあたり、改善を目指します。

- 県教委のスクールカウンセラーやS S Wを活用する。
- 町が設置している適応教室での学習や訪問相談員の活用で、一人一人の困り感に寄り添いながら教室に戻れるまで丁寧な対応に努める。
- タブレット端末を活用して不登校傾向の児童生徒と担任等がコミュニケーションを図ることで、再登校しやすい安心できる関係性をつくり出す。

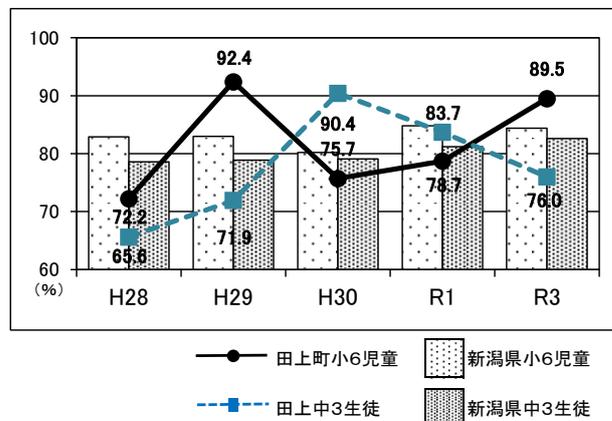
#### 4 自宅での生活の評価

平成 28 年度から令和元年度までの全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査「朝食を食べているか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」の結果は、以下の様です。

朝食を食べているか



毎日、同じくらいの時刻に寝ているか

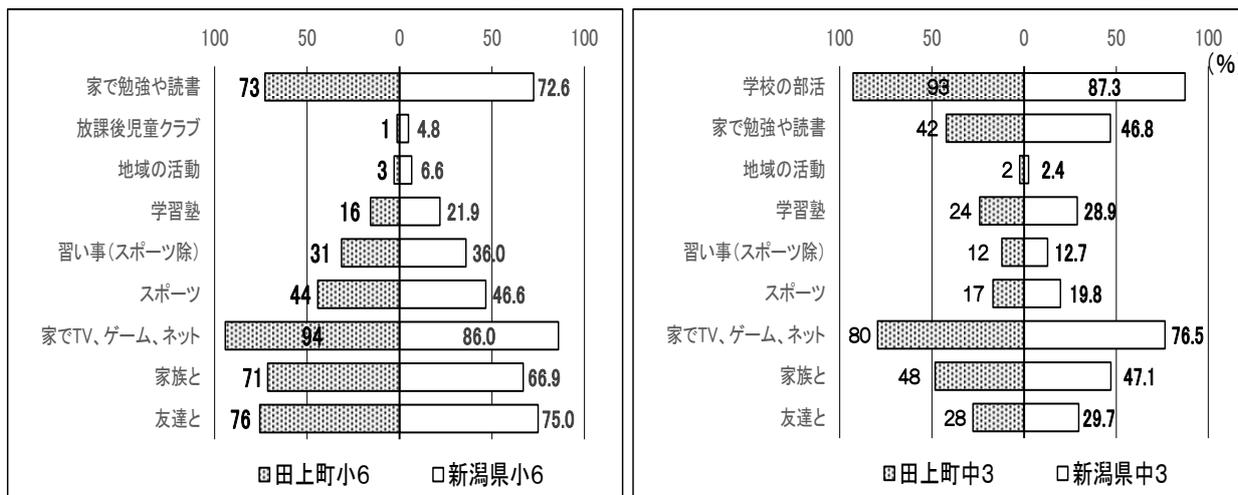


朝食の摂取状況が県と比べてやや低い状況です。朝食を摂取しない理由について調べる必要があります。定刻に就寝する習慣は、次第に身に付いてきていると評価できます。

以下は、平成30年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査「放課後に何を  
して過ごすことが多いか」の結果（左：小6児童 右：中3生徒）です。

小6:放課後に何をして過ごすことが多いか(複数選択可)

中3:放課後に何をして過ごすことが多いか(複数選択可)

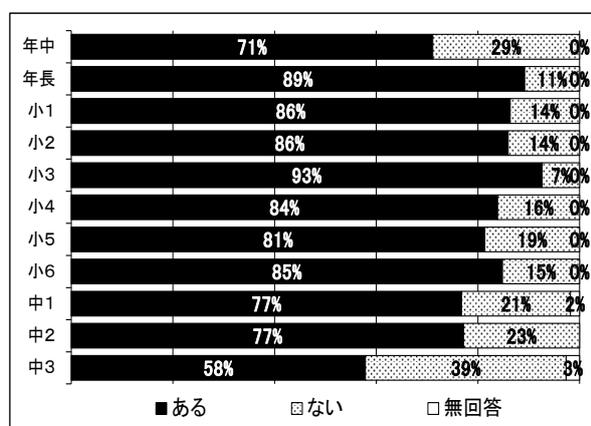


田上の小6児童の放課後の過ごし方では、県に比べて「家族や友達と過ごす」が多く、習い事がやや少ない状況です。気になるのは、「TV、ゲーム、ネット」と回答する割合が県よりも8ポイント高くなっていることです。

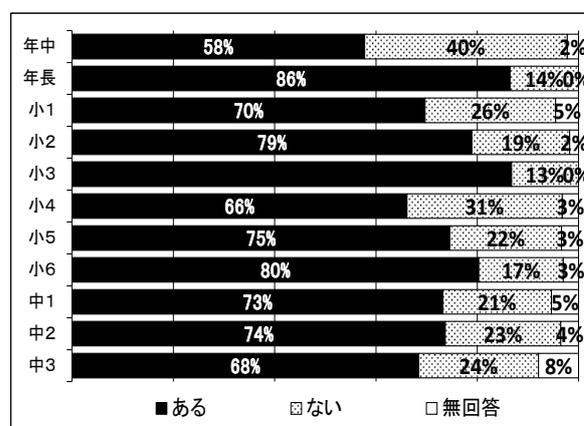
田上の中3生徒の放課後の過ごし方では、県に比べて「学校での部活」が多く、家庭での学習や塾通いがやや少ない状況です。気になるのは、小6児童と同様に「TV、ゲーム、ネット」と回答する割合が県よりもやや高いことです。

田上町では、町内の幼稚園・幼稚園、小学校、中学校に子どもが在籍するご家庭に、平成28年度から、年3回「田上町アウトメディア・ウィーク」の取組をお願いして町ぐるみで取り組んできました。電子メディアに上手に触れることで過度の接触を減らして、自分自身の時間・家族の団らん・人と人とのつながりの時間を大切にしようというものです。「家族で話し合ってルールを決める」「家族でルールを遵守する」「家族で取組を振り返る」を大切にしています。

テレビやゲームの約束はあるか(R3年度)



携帯電話やスマホの約束はあるか(R3年度)



家庭内でテレビやゲームの約束を設けている割合は、小学校高学年から次第に低下しています。家庭内でスマホ等の約束を設けている割合は、学年に関係なく50～80%程度です。情報モラルへの保護者の関心は高く、その点検の実施が課題です。

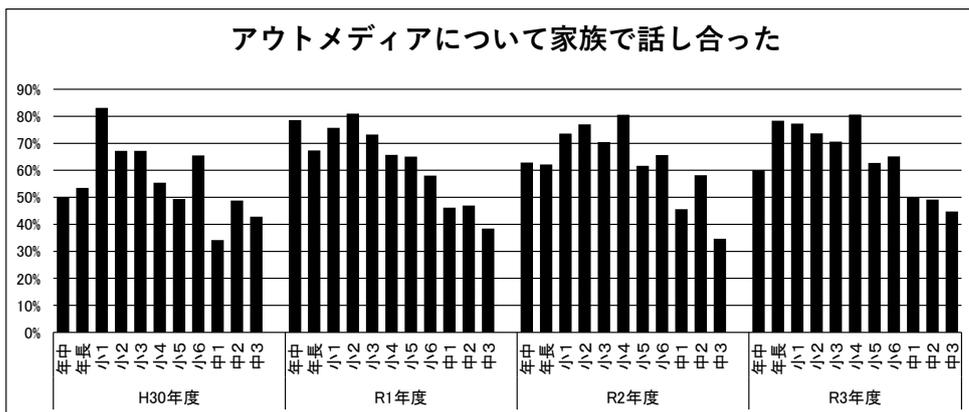
## 《田上町アウトメディア・ウィークの取組》

平成30年、厚生労働省研究班は、オンラインゲームやSNSのやり過ぎなどのネット依存が疑われる中高生は全国に約93万人いるとする推計を発表しました。

右上グラフは、田上町の年中組園児から中3生徒までの「メディアの接触について話し合ったか」に対する肯定的回答の割合です。小学校高学年ごろから中3にかけて、家族で話し合う割合が減少するようです。

メディア接触時間や活用の仕方を見直し、メディア

を自分の学びや生活の充実のために活用できるよう、年間3回のアウトメディア・ウィークと小中学校連携の「たけのこカード」を継続し、「メディアで田上の子を加害者にも被害者にもしない」を目指します。



田上町園児・小中学生の保護者の皆様  
令和2年7月3日  
田上町教育委員会

### 7月7日(火)～7月11日(土)は 田上町アウトメディアウィーク

望ましい生活習慣の確立のために  
心も体も健康で楽しい学校生活をおくるために  
ネットトラブルで被害者や加害者にならないために

「アウトメディア」について  
自分が電子メディアに接触している時間などを見直すことが目的です。電子メディアを排除するものではありません。電子メディアに上手に触れることで過度の接触を減らし、自分の時間・家族の団らん・人と人のつながりの時間を大切にしようというものです。

田上町アウトメディアウィークでは  
○家族で話し合ったルールを決めましょう！  
○家族でルール遵守に取り組みましょう！  
○家族で取組を振り返りましょう！

田上町では、市内の幼稚園・幼稚園、小学校、中学校に子どもが在籍するご家庭に、年間3回「田上町アウトメディアウィーク」の取組をお願いしております。小学生と中学生は、「たけのこカード」で就寝時間と電子メディア接触時間の目標を設定し、規則正しい生活習慣が身に付くよう努力します。今年度は、以下の予定で「田上町アウトメディアウィーク」を実施します。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

- 1学期の取組期間 7月7日(火)～7月11日(土)
- 2学期の取組期間 11月17日(火)～11月21日(土) ※アンケートへの回答をお願いします。
- 3学期の取組期間 1月19日(火)～1月23日(土)

田上町アウトメディアウィーク実行委員会  
No Action No Change

### 国立教育政策研究所 メディア・リテラシーに関する総合的研究～「子どもたちとメディア」～より

国立教育政策研究所が、小学校5年生、中学校2年生、高校2年生を対象にしてメディアからの経験を調査して発表した資料の一部を紹介いたします。本調査では、新聞や雑誌、テレビなどのメディアから得た情報によって、子どもたちが、どのような経験をしたことがあるかをたずねています。本、テレビ、インターネットへの回答を以下のグラフにしました。(単位は%)

元気が出たことがある

学年	性別	元気が出たことがある	時々ある	あまりない	全くない
小学校5年生	男子	28.4	37.2	25.4	8.9
	女子	22.2	37.2	25.4	15.2
中学校2年生	男子	22.9	41.8	25.9	9.4
	女子	21.4	41.8	25.9	10.9
高校2年生	男子	48.7	37.2	10.9	3.2
	女子	48.1	37.2	10.9	3.8

勉強に役立ったことがある

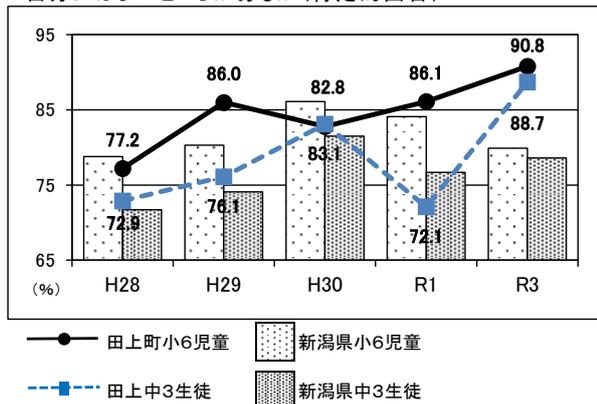
学年	性別	勉強に役立ったことがある	時々ある	あまりない	全くない
小学校5年生	男子	49.1	41.8	11.2	8.9
	女子	31.5	41.8	11.2	15.5
中学校2年生	男子	25.0	45.9	19.4	10.7
	女子	25.0	45.9	19.4	10.7
高校2年生	男子	31.5	41.7	11.9	14.9
	女子	28.7	41.4	12.2	17.7

メディア接触時間など話し合った「家族のルール」を決め、「ネット上のマナー」を守って利用させましょう。また、有害なサイトから子どもを守るために、必ず「フィルタリング機能」を利用しましょう。

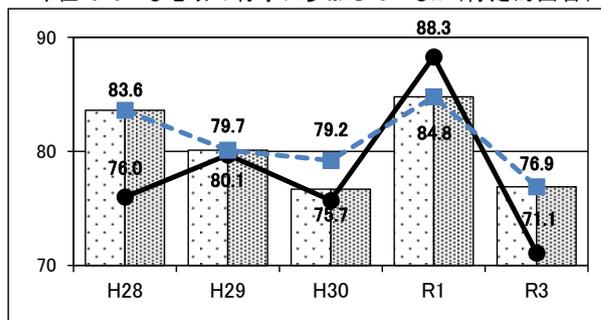
## 5 社会性に係る子どもの自己評価

以下は、平成28年度から令和元年度までの社会性の育ちに係る全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査結果の推移です。

自分にはよいところがあるか(肯定的回答)



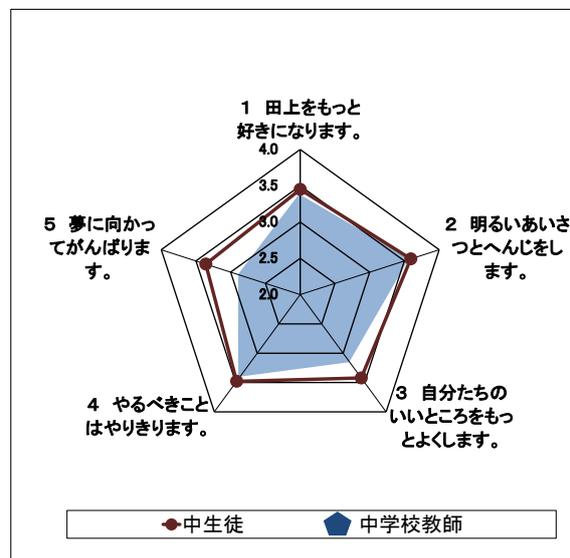
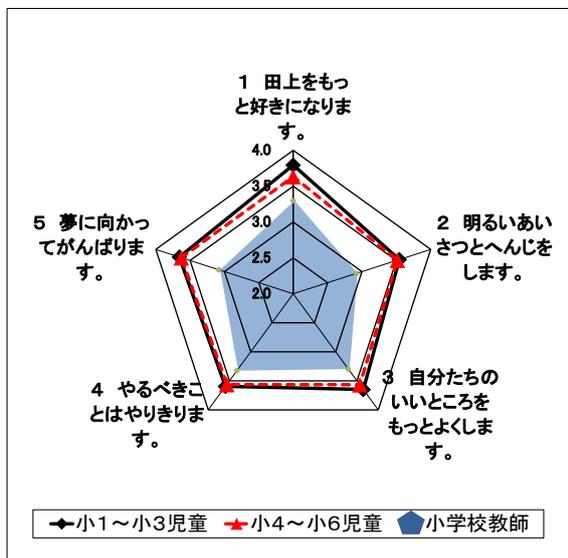
今住んでいる地域の行事に参加しているか(肯定的回答)



R3年度は、夏祭りを開催できませんでした。

「自分はできる子だ」「自分にはよいところがある」と自尊感情を覚える児童生徒の割合が、令和元年度時に中3だった児童生徒を除いて増加傾向にあります。地域行事への参加する生徒の割合が年々増えており、学校の外での成功体験を伴う多様な活動が、一人一人の自尊感情を醸成している要因のひとつと思われます。

## 6 「田上っ子宣言」に係る意識の評価



上グラフは、令和3年度の「田上っ子宣言」アンケート結果です。

小学生の低学年と高学年で、「挨拶」と「夢に向かってがんばる」への自己評価の差が小さいことから、小中連携のあいさつ運動や生活科と総合的な学習の時間を中心とした田上を学ぶ活動が機能的であることを推察できます。教師と児童の「やるべきことはやりきる」ことへの評価は共に高く、自分の役割を果たそうとする田上の子どもに育っています。

中学生の自己評価では、「田上をもっと好きになる」「明るい挨拶と返事」「やるべきことはやりきる」の生徒評価並びに教師評価が共に高くなっています。小中連携の成果であると受け止めることができます。キャリア教育の要である「夢に向かってがんばることへの取組の見直し」と「自分たちのよいところをもっとよくしようとする」集団づくりが課題となります。

### 【成果】

- 「話を聞く」の自己評価は比較的高い状況であり、縦軸の連携指導の成果です。主体的・対話的な学びやよい人間関係の構築には、相手の話を正確に理解しようとしたり、相手の心情に思いを馳せて共感したりする資質が欠かせません。
- 「役割を果たす」の自己評価は高い状況にあります。キャリア教育を意識した指導の連携の過程で、「なりたい自分」を思い描いて、自分の役割を果たしていこうとする意欲が育っています。
- 「明るいあいさつ」の自己評価は全学年を通して高い傾向にあります。「小中一緒にあいさつ運動」などで、中学生が推進役を担ってきた成果と言えます。

**【課 題】**

- 「考えをもち伝える」の自己評価が、小学校中学年から低くなる傾向が顕著です。「考えをもち伝える」は、新しい学習指導要領に位置付けられた新しい時代に必要となる資質・能力です。学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養、生きて働く知識・技能、未知の状況にも対応できる生きて働く知識・技能の習得 思考力・判断力・表現力等の育成に不可欠です。